

1－7 実施の効果

第1年次である今年度は、育てたい資質・能力の設定と防災単元の開発を主に研究を進めてきたので、今年度中に実施の意識・行動調査を基にして変容を見ていくこととする。

① 児童・生徒への効果

校内研究体制の中に評価部会を設置し、そこが主体となって今年度は、意識・行動調査を計画・実施する（12月実施，1月集計・分析）。意識・行動調査の質問項目は、防災安全科で育てたい資質・能力に沿った内容で設定した。同学年における前年度比較と4年間の経年変化等に着目し分析を行う。よって、今後、4年間、全学年で継続して実施する。防災安全科の授業を通しての評価については、学年ごとの活動プログラムが出来上がった段階で、育てたい資質・能力に沿った具体的な評価項目を設定して見取っていく。また、学校全体で行う避難訓練・防災訓練等についても、授業と関連付けながら観察項目を設けて定期的に評価していく。尚、防災安全科を創設して実施した教育課程による児童の変容（学力、たくましく生きる力、人間関係、意欲等）については、仙台市標準学力検査及び生活・学習状況調査の結果等から考察していきたい。

② 教師への効果

児童、保護者、地域関係者とは別に、教職員に対しても意識調査を実施し、防災教育への理解度、指導力、研修意欲等を評価していく。さらに、協働型学校評価や教育活動改善シート等にも反映させることにより、PDCAサイクルで自己評価していきたい。

③ 保護者等への効果

児童対象の意識・行動調査とともに、保護者及び地域関係者に対しても同様の調査を実施する（12月実施，1月集計・分析）。意識・行動調査の質問項目は、児童、保護者、地域関係者共通の内容を設定する。それぞれの防災意識の違いや広がり、連携、さらには、前年度比較と4年間の経年変化等に着目し分析を行う。

1－8 研究実施上の問題点と今後の課題

- 単元開発においては、各教科等から防災に関連する内容を統合して設定したが、もとの各教科・領域の要素が強い傾向が見られた。今後、防災安全科の単元としての有効性を確認していき、学年ごとの年間指導計画として整理しながら、実践を通して単元化・教材化していきたい。
- 指導においては、仙台市新防災教育副読本を主な教材としながら、関連する資料を収集したりワークシートを作成したりして、新たに教材を開発していく。
- 教科等から新領域への移行により、その内容への影響が教科等に出ないように、教育課程全体の見直しを検討していく。
- 育てたい資質・能力を設定して、そこから、目標や内容を考えていった。学習活動における具体的な評価は、身に付けさせたい力で見取るか、教科の観点（知識、技能、思考・判断、態度）で見取るかを今後、検討していく。
- 年間20時間で設定したが、防災マップの作成や疑似体験等の活動を組み入れると、時数的に不足してしまう。時数を増やすか他教科等との関連で行うかを検討したい。